第 13 話：「アンケートに頼らず，具体的な成長を見取る評価の在り方」

５５名の一年生と１１名の先生方をお迎えして，「横浜家族」の新年度がスタートしました。

今年度，豊かな心を育てるために，礼節の町，坂町を意識して，次の３点を学校評価にも加えて，組織的に取り組むことにしました。

１つ目は，時間を守ることです。具体的に言えば，チャイムの合図を守って行動することです。これは，**子どもたちが将来社会に出た時にも当然求められることであり，ある程度の緊張感をもって生活するためにも必要**だと考えます。

２つ目は，決まりを守ることです。**特に，昨年度，ろう下を走ったり，大声を出して通ったりする光景が気になっていた**ので，ろう下を静かに歩行するよう取組を進めていきたいと考えています。決まりを守ることの大切さを，特別な教科道徳の時間や特別活動で指導したり，生徒指導部を中心に学校全体で組織的に取り組んだりすることを考えています。

３つ目の食事の作法を身につけることです。具体的には，正しく箸をもつこと，食器を持って食べること，食器を丁寧に扱うことなどが挙げられます。日本人は手先が器用であると言われていますが，幼いころから箸を使って食事をすることと無関係ではないと思われます。今年度は，栄養教諭と担任が連携して，**食育指導で箸の正しい持ち方について体験を通して学んだり，（スプーンにはない）箸の便利さについて考えさせ**たりしながら，食事における感じの良い作法を身につけさせたいと思います。箸を美しく使うことについて，お手本を見せることで，礼儀作法を習得することはとても大切なことだと児童に認識してもらいたいと思います。

昨年度までは，こうした児童の心を扱う取組の評価については，児童へのアンケートに頼っていました。全ての項目で，肯定的評価（「よくできる」と「どちらかといえばできる」を合わせた割合）９０％を超えていました。数値的な評価としては良かったのですが，どんな取組が効果的だったのかという分析があいまいであり，**児童の生活の中から具体的な進歩や成長の姿を見出すことが難しかった**ように思います。

そこで，今年は，**授業を通して意識付け**を行い，**全校児童が一斉に取り組む**ことで，**チャイム，ろう下歩行，食事の作法を通して，豊かな心を育てていこう**と考えました。

最後に，ＰＴＡ総会でご披露しました横断幕の通り　”「横浜家族」を合言葉に，地域・保護者そして学校が協力して，絶えず挑戦する心をもち，創造性あふれる子どもたちを育てていきます”

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

校長　寺岡　成希